

科目名称:保育内容(言葉)指導法Ⅱ					
担当者名:岡部 智子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24106242
授業概要:言葉の発達は、乳幼児期に著しく、この時期の言葉に関する教育は、その後の人格形成に大きく影響を与えるものである。乳幼児期の言葉の発達を踏まえながら、言葉遊びや手遊び、絵本の読み聞かせなどを通して、保育の実践力及び応用力を身につけていく。					
到達目標:乳幼児期の言葉の発達過程とその特徴を理解することができる。言葉あそびや手遊び、絵本の読み聞かせなどを通して保育の実践力および応用力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス			保育内容(言葉)指導法Ⅰを復習しておく(60)		
第2回 乳幼児の言葉の育ち(1)言葉が生まれる前			0歳児の言葉の発達について調べておく(60)		
第3回 乳幼児の言葉の育ち(2)3歳未満児			1・2歳児の言葉の発達について調べておく(60)		
第4回 乳幼児の言葉の育ち(3)3歳以上児			3・4・5歳児の言葉の発達について調べておく(60)		
第5回 乳幼児の言葉の発達をどう理解するか(1)幼児音、幼児語			幼児音・幼児語について調べておく(60)		
第6回 乳幼児の言葉の発達をどう理解するか(2)指さし行為			指さし行為について調べておく(60)		
第7回 言葉あそびに触れる(ICTの活用)			乳幼児期の発達に合った言葉あそびについて調べ、発表できるように準備しておく(60)		
第8回 言葉に対する感覚とは			前時に提示された課題に取り組む(60)		
第9回 保育の中での児童文化財(ICTの活用)			前回授業範囲の復習(60)		
第10回 絵本の読み聞かせについて知る			前時に提示された課題に取り組む(60)		
第11回 手あそびに触れる			前時に提示された課題に取り組む(60)		
第12回 模擬演習・発表(1)グループ作り、話し合い			読み聞かせの発表に向けてグループ毎に準備しておく(60)		
第13回 模擬演習・発表(2)準備			読み聞かせの発表に向けてグループ毎に練習しておく(60)		
第14回 模擬演習・発表(3)発表			読み聞かせの発表に向けてグループ毎に練習しておく(60)		
第15回 模擬演習・発表(4)振り返り、講評			発表内容について自己の取り組みを振り返り、整理しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:保育内容(言葉)指導法Ⅰを総復習しておくこと。また、日頃から児童文化財に触れ、技術向上に努めること。					
課題に対するフィードバック:授業で提出した演習課題の成果物やワークシートについては、点検・添削された後、次回以降の授業で返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験 80%、実技試験 20%(受講態度を含む)					
教科書:「最新保育講座 10 保育内容 言葉」柴崎正行、戸田雅美、秋田喜代美(ミネルヴァ書房)					
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:参考文献として、『実践につなぐ ことばと保育』改定2版 近藤幹生他(ひとなる書房)を使用する。					
実務経験の内容・期間:幼稚園教諭(22年)					